神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Valediction

メタデータ	言語: zho 出版者: 公開日: 2004-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中嶋, 長文, Nakajima, Osafumi メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/736

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

留別

歪詩四首　四一一号室北窗にて

中島長文

人の子を誤り来る四十年やうやくけふぞ業(ごふ)を卒へたり

逝く者は斯の如きか昼夜を舍かずとわれにもわれの歎きあり

月々のたづき破りて購ひし堆(やま)なす書をば読まず果てなむ

今生に餘白はあるかあるならばその書を抽きて昼寝をやせむ

自序略

中島長文、大和の人也。一千九百三十八年十二月十五日を以て生る。初め室号を木旗騒堂と称し、後木旗闃堂と改む。通称山太郎。其の先言ふに足るなし。父榮一に至りて始めて書を読む。歌書若干冊あり。一千九百六十七年、長文辟雍を出でて庠に就きてより、潦倒として半生を其の中に費消せり。初め京都産業大学に職を得、継いで滋賀大学に遷る。一千九百八十五年、本校に転任、二千四年三月を以て退休す。其の間、名を魯迅研究に託するも殆んど言ふべきものなし。強ひて之を言はんか、唯僅かに二篇あるのみ。一を古小説鈎沈校本と云ふ、工を竣ふと雖も、梓行の資なく、之を同学に頒かたんと欲するも由るなし。今一を中国小説史略考証と云ふ、年々学報に紙幅を占むるも、終に数章を剰して未だ完稿を見ず、信に九仞の功を一簣に虧くと謂ふべし。慙愧の至り也。遂に学は成らずして庠序に教書匠として終はりぬ。二千某年某月某日卒し、大和は高市の郡なる真菅の里の父母の墓に葬る。

自銘に曰く、野の果てのいばらの墓もまぼろしか過客の問をわれも亦た問ふ（魯迅『野草』に「過客」一篇あり）